【教育目標】 ◎明るくやさしい子ども　◎進んで学習する子ども　◎健康でがんばる子ども

旭田っ子だより

令和 ３年 ８月２５日（水）
旭田小学校学校だより No.５
文責： 校長　天野　　圭

【第２学期もよろしくお願いいたします】

久しぶりに、子どもたちの明るい歓声が校舎に響き渡りました。担任の先生と話す子どもたちの表情も、とても生き生きしており、楽しそうな雰囲気が伝わってきました。例年、夏休みと言えば、家族での旅行が大きな行事の一つでした。しかし、現在コロナ禍の中にあっては、外出等を自粛しなければならず、密を避けて過ごすことから、それなりに行動範囲が狭まってしまったことと思います。そのような中ですが、休業中に大きな事故やけがの連絡がなかったことは、子どもたちの心と命を守るために、保護者の皆様の様々な御配慮があってのことと、あらためて感謝申し上げます。

また、先日の PTA 奉仕作業では、たくさんの保護者の皆様に御協力をいただき、環境を整えてくださいましたこと、併せて、感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、第２学期は、８３日間という長い学期になります。コロナ禍で延期にしていた学校行事等も２学期に実施する予定です。新型コロナウィルス感染症拡大防止対策を十分に講じながら、１学期以上に、子どもたちが「期待の登校、満足の下校」が出来るような学校でありたいと考えております。引き続き、よろしくお願いいたします。

【自己肯定感と主体的な学び】

私も含めてですが、保護者の皆様は、自分に自信はありますか。自分のよさは、御存じでしょうか。日本人は、諸外国と比べて、自己肯定感が低いといわれています。（以前は、日本人の美学と言われていた時代もあったかもしれませんが。）

先に出された新学習指導要領（文部科学省から、どの地域でも、全国一定水準の教育を受けることができるように、学年や教科に応じて、一定の目標や内容が定めてあるもの）によると、

- ☛ 「一人一人の児童・生徒が自分のよさや可能性を認識する。」と明記されています。
  このことは、「児童・生徒が、自分のよさや可能性を理解すること。」
- ☛ つまり、「自分はこれが得意。」「この勉強には、自信がある。」等という自己肯定感が大切になります。
- ☛ そして、この気持ちを高めるためには、できたことやがんばったことを、担任等や保護者が称賛することで、認められたという経験を増やしてあげること。
- ☛ さらに、この経験が「今度は、こんな感じでやってみようかな。」「私は、この内容が得意だから、自分で勉強してみよう。」「前に失敗したけど、もっと上手になりたい。」等の気持ちになり、そこから　自ら取り組もうとする、主体的な学びが生まれてきます。
- ☛ さらに、高学年では、「がんばって取り組んだら、よい結果が出た。」「つらかったけど出来たら最高に気持ちがいい。」という経験をたくさん味わってほしいと願っています。
- ☛ そのために、私たちができること。それは、教えることはしっかり教え、一人一人の児童をよく見ること（視ること）だと思います。

ならぬことはならぬは基本ですが、素晴らしいことは、思い切り、力一杯ほめることを目標にがんばっていきたいと思っています。